

の施設への紹介状だった。旅に出る前お願に上った時、あいにくお留守だった先生が、間もなく帰られてのおたよりだった。その末尾に、「このたよりが、間に合って役立てば幸甚」というお言葉のあったことは、今も忘れられない。もちろんそれは間に合ったし大いに役立って幸した。先生は、いつもこうした大いなる愛情を我々にもそそがれる偉大なる方であった。

×

先生のなつかしい思い出は、いつまでも尽きないが、今頃は花咲く天国の野で、星輝く天国の空の下で、フレールやアンデルセンと、それを取巻く天使の子等と歓語しておられることをしのでペンをおく。

師よ、まずしき弟子を何とぞまもりたまえ。

師は永遠に高く輝く春の星

(童話作家)

×

×

×

先生のこと一つ

多田 鉄雄

幼児教育發展に記された比類なく偉大な先生の足跡が今更に偲ばれる。前夜祭(お通夜)の折、御令闈が先生の用心深かったお話をなさって「主人は石橋を叩いても渡らないとでも申しましょうか」と云われたのであるが、たしかに先生が進まれて行く有様を見ていると、気の短い人々に取っては何か物足りないように感じられたかも知れない。しかし「凡ての幼児に就学前教育を。凡ての幼児が同様の施設で等しく教育を受けること」の理想が先生の胸中で不動の信念をなされており、無理押しをせず、それだけに他人からは窺えないほどの御苦心をつねに払って努力されたのであったし、先生が一旦開拓され建設されたお仕事はゆらぎもない確固たるものとなっていたのである。例えば幼稚園令公布の折は、むしろ

縁の下の力持のような役割をお引受けになられて各方面の力が結集・統一されるように導びかれて、ついにその実現を果されたのであった。終戦後は教育刷新委員会委員として新しい幼稚園制度の樹立に献身されたのであるが、これも決して平坦な路ではなかったのであって、たまたま私は文部省に席を持っていたので、先生は会議の前後によく立寄られて会議における御腐心の有様を物語って下されたものである。この時、外に柔らかく、しかしいささかも節を屈することなく、辛棒強く、一步一步と御自分の信念の向うところに進まれる先生の真骨頂をはっきりと理解いたしましたのである。かくて或はアメリカ側の主張、或は保育所一本槍で進んで来る側の主張に注意深く対処されながら、現在のように幼稚園を学校制度の一環に組入れてその地位の確立に成功されたのである。しかも現制度が保育所と幼稚園がいつでも一元化出来るような含みのあるものに仕組まれているところに、先生の遠い慮りがあるかと云える。先生はここまで運ばれた筋道が後に続く人々によって引継がれて行くことを期待されつつ永眠されたものと私は堅く信じている。

(一ツ橋大学教授)

×

×

×

倉橋先生を憶う

日本のフレイベル

竹村

一

日本の幼稚園教育の先輩であった豊田英雄先生、氏原銀先生、膳だけ先生、宇式かん先生近くは望月くに先生方々を失って何だか淋しさを感じている矢先、日本のフレイベルと申上たい倉橋先生を亡くした事は何と云っても寂寥の思いがひしひしと胸にしみ込んで来る。

私が倉橋先生を存じ上げたのは、私がまだ大阪医科大学の学生で、殆ど毎週江戸堀幼稚園の膳先生に師事していろいろとお教えをうけていた時代である。考えてみるともう四十年の昔になる。大阪、神戸と先生の講習の開かれる度毎に沢山の保母さんの中に交って聴講して幾枚かの終了証書もいただいた事であつた。特に私の永久に感激の追憶は先生が、私が医科を卒業すれば、東京高師へもう一度入学して三年勉強